

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年(コース)	4学年
使用教科書	大修館『新高等保健体育』				
副教材等	大修館『新高等保健体育ノート』				

## 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル（地域的・地球的）な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。</p> <p>②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。</p> <p>③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。</p> <p>②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。</p> <p>③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。</p> <p>④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。</p> <p>⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。</p>

## 2 学習目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

## 3 指導の重点

- |   |
|---|
| <p>①授業規律の向上（時間を守る、課題に対して全力で学習する）</p> <p>②課題提出率の向上（保健体育ノート）</p> <p>③各单元ごとの小テストによる理解の確認</p> |
|---|

## 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

## 5 評価方法

	評価は次の観点から行います		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での発言やグループ活動の状況</li> <li>・課題レポートや小テストの状況</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークでの活動状況</li> <li>・課題レポートの内容</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、ノートの準備状況</li> <li>・ノートや課題の提出状況</li> <li>・グループワークへの取り組み状況</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」内容のまとまりのごとの評価基準は授業で説明します。		

## 6 学習計画

月	単元名	授業 時数	学習活動(指導内容)	評価方法
4	I 現代社会と健康 1 健康の考え方と 成り立ち  2 私たちの健康の すがた	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解する。</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト
5 ～ 8	3 生活習慣病の 予防と回避 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の保持増進のために、「がん」をはじめとする、生活習慣病の知識を身に付け、その予防、治療のため具体的な方法を理解し、実践する。</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト グループワーク
9	9 喫煙と健康 10 飲酒と健康  11 薬物乱用と健康	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の保持増進のためには、喫煙、飲酒に関する適切な意志決定・行動選択が必要であることを理解する。</li> <li>コカインなどの麻薬、覚せい剤など、薬物の乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解する。</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト グループワーク
10	12 精神史問の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの 回復	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神機能は、主として大脳によって統一的・調和的に営まれていることを理解できるようにする。</li> <li>人間には様々な欲求があり、欲求が満たされないときには、不安、緊張、悩み、などの精神の変化が現れるとともに、様々な適応機制が働き、精神の安定を図ろうとすることを理解できるようにする</li> <li>人間の精神と体は密接な関連を持っていることを、身体的変化が精神に及ぼす影響と精神的变化が身体に及ぼす影響との両面から理解する。</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト グループワーク
11	15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズ とその予防	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイズ・結核・腸管出血性大腸菌感染症や薬剤耐性菌等、近年、感染症の新たな問題が起こっていること、及びその予防には、社会的な対策とともに個人の適切な行動が必要であることを理解する。</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト グループワーク
12	18 健康に関する意思 決定・行動選択  19 健康に関する環境 づくり	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品の有効性や副作用及びその正しい使用方法について理解する。</li> <li>人間の欲求の高次なものの一つとして、自分自身を高め持てる力を最大限に発揮したいという自己実現の欲求であり、また、その充足が精神の健康と深く関わっていることを理解する</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト グループワーク

1 ・2	Ⅱ安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行などの適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備などが重要であることを理解する。</li> <li>交通事故には責任や補償問題が生じることも理解する。</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト グループワーク
2 ・3	4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>傷害や疾病に際しては、心肺蘇生法等の応急手当を行うことが重要であることを理解させる。また、併せて応急手当には正しい手順や方法があることを理解する。</li> </ul>	授業態度 保健ノート 小テスト グループワーク

計35時間 (50分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・单元ごとに小テストを実施し、生徒の理解度をはかります。
- ・定期的に最新高等保健ノートを課題として提出させます。

## 8 担当者からの一言

保健分野は、自分の体のことや健康に関する内容の学習です。ですから、生きるうえでの重要な知識を学びます。その学んだことを実際の生活に生かせるように、様々なことに興味を持ち、実践していきましょう。そして、生涯を健康に過ごすために役立ててもらいたいと思います。

(担当：山田 和弘)